石川県薬剤師会エヴァ通信

2026 年 10 月 20 日

人間の判断は、いつまで主役なのか

中森です。

「AI 時代の科学で、人間の役割は何か」。そんな問いを投げかける記事を読んだ。

きっかけの一つは、OpenAI が 10 月 6 日に公開した、AI が生み出した 700 本を超える数学の論文形式の研究成果だ。多くの証明には、コンピューターで検証できる Lean 形式も添えられている。ただし、成果を理解し、数学の中での意味を確かめ、次の研究につなぐ仕事は残る。OpenAI も、数学者が結果を検討するための支援を発表した。
https://github.com/openai/math/blob/main/README.md

いま語られる人間の役割は、問いを立てること、結果を確かめること、何に使うかを決めることだ。けれど、この分担はいつまでも続くのだろうか。

人間が問いを立て、AI が答えを出す。最後は人間が判断する。いまはそう説明される。けれど私は、この役割分担は一時的なものではないかと思う。AI は知識や計算力だけでなく、判断の深さ、つまり叡智とともに、人間を凌駕していく。その日は、遠い未来ではなく、もうすぐそこまで来ているのではないか。

そのとき、人間の役割は、AI より賢いことを示すことではないのだろう。私たちはどんな世界を望むのか。何を守り、何を変えるのか。AI の判断を受け入れるにしても、その理由を問い続けることが、人間に残る役割なのかもしれない。

ただ、それも今の私たちから見た仮説にすぎない。AI の叡智が人間を凌駕したとき、科学は誰のものになるのか。

答えはまだない。だからこそ、AI と一緒に考え続けたい。

石川県薬剤師会会長　中森慶滋